

第1節 高齢者の活躍支援と安心して暮らせる地域社会づくり

施策1－3 暮らしの安心・安全の確保

指標	単位	計画策定時の値	最新値	最終目標値
福祉避難所の開設訓練を実施済みの市町村数	市町村	55 (R4年度末)	59(見込) (R7年度末)	63 (R8年度末)

<令和7年度の主な取組実績>

- ・市町村が実施する福祉避難所開設・運営訓練の支援
4市町（行田市、狭山市、蕨市、吉見町）
※ うち訓練未実施自治体1市
- ・福祉避難所開設訓練に係る市町村職員向け研修会の開催
1回（29市町47名参加）

<数値目標の進捗状況・評価>

- ・令和7年度は、開設訓練未実施の1市において県が支援を行い開設訓練を実施した。
- ・また、その他の未実施の1市においても3月末までに図上訓練を実施予定であり、順調に推移している。

<取組の効果・課題・対応策>

<効果・課題>

- ・モデル市町の訓練に、未実施の市町を含めた県内市町村にもオブザーバーとして参加してもらい、実際の訓練の進め方を体験いただいた。
- ・また、福祉避難所の開設・運営に関わることとなる福祉部門・危機管理部門の市町村職員向け研修会では、マニュアルを用いた図上演習を実施することで、福祉避難所となる福祉施設等と市町村の連携方法を確認いただくなど、実務に即した支援により、令和7年度においても未実施の市による訓練実施につながったものとする。
- ・一方で未実施の市町が未だ残っていることや、単に訓練を実施するだけでなく実際の災害時に速やかに避難所を開設できるよう、関係者間の連携を強化するなど質を伴った訓練にしていくことが課題である。

<対応策>

- ・令和8年度以降も未実施市町を中心に、開設訓練実施に向けて、実務に即した支援を継続していく。
- ・福祉部門・危機管理部門の市町村職員向け研修会を開催し、平時からの関係者間の連携強化を図る。

第2節 地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの深化・推進

施策2－5 包括的な支援体制の整備

指標	単位	計画策定時の値	最新値	最終目標値
ケアラー支援を担う人材育成数	人	3,590 (R3～5年度の累計)	7,035 (R3～R8.2末の累計)	6,000 (R3～8年度の累計)

<令和7年度の主な取組実績>

- ・ ケアラー支援関係機関向け研修の開催
動画配信＋オンライン6回 459人が参加（R8.2.28時点）
- ・ 医療従事者向け研修の開催
動画配信 1,035人が参加（R8.2.28時点）
- ・ 地域福祉活動者向け研修の開催
4回 216人が参加
- ・ 大学教職員等向け研修の開催
動画配信 110人が参加（R8.2.28時点）
- ・ 地域包括ケアシステム基礎研修
動画配信 146人が参加（R8.2.28時点）

<数値目標の進捗状況・評価>

- ・ 令和7年度単年度の実績は1,966人（令和8年2月28日現在）で、令和3年度からの累計は7,035人となり、令和7年度末までの目標値5,000人を超え、最終目標の6,000人を既に達成した。

<取組の効果・課題・対応策>

- <効果・課題>
 - ・ 令和7年度は、ケアラー支援の裾野を更に拡大するため、新たに医療従事者向け研修及び大学教職員等向け研修を実施した。
 - ・ 医療・看護サービスの提供を通じて、ケアラーの存在に気付く機会の多い医療従事者と、学生との面談などを通じて若者ケアラーの存在に気付く機会の多い大学教職員等に研修を実施することで、本県ケアラー支援体制の充実に寄与したと考える。
 - ・ 上記研修等の実施もあり、既に計画上の数値目標は達成できた。
 - ・ 一方で、介護職員や医療従事者の数などを踏まえれば、人材育成の取組はまだ道半ばと言える。
 - ・ また、ケアラーアセスメントやケアラー支援計画の作成など、令和7年度から開始した、より実践的な内容の研修も継続して行っていく必要がある。
- <対応策>
 - ・ 令和8年度も多くの方に、実践的で役立つ研修を提供できるよう、引き続き効果的な周知や内容のブラッシュアップに取り組む。

第3節 認知症施策の総合的な推進

施策3－1 認知症施策の総合的な推進

指標	単位	計画策定時の値	最新値	最終目標値
チームオレンジを整備している市町村数	市町村	28 (R5.12末)	50 (R7.12末)	63 (R7年度末)

<令和7年度の主な取組実績>

- ・チームオレンジの立ち上げや運営に向けた個別具体的なアドバイスなどの支援を行う「オレンジチューター」の設置、派遣(R8.2末時点)
直接訪問15件、電話等相談191件、研修講師11件
- ・市町村のチームオレンジに関する理解を深めることを目的とした「市町村担当者」向けの研修の開催
1回 35名参加

<数値目標の進捗状況・評価>

- ・令和6年3月末時点：31市町村
→令和7年3月末時点：43市町村（+12市町）
→令和7年12月末時点：50市町村（+7市町）
目標達成に向けて順調に推移している

<取組の効果・課題・対応策>

<効果・課題>

- ・市町村へオレンジチューターを派遣し、個別的に研修会や勉強会を実施することで、チームオレンジの立ち上げに繋がった。
- ・市町村に対し「チームオレンジ」構築の必要性を説明し、チームの立ち上げや運営に向けた個別具体的なアドバイスをしていくとともに、先進事例の紹介をしていく必要がある。

<対応策>

- ・「チームオレンジ」未設置の残り13市町村についても、個別にオレンジチューターによる助言を行っていく。
また、設置に向けた助言・支援を引き続き行っていく。

第4節 介護保険施設等の整備

施策4－1 特別養護老人ホーム等の整備

指標	単位	計画策定時の値	最新値	最終目標値
特別養護老人ホームの整備数	人分	39, 567 (R5年度末)	40, 360 (R6年度末)	45, 251 (R10年度末)

<令和7年度の主な取組実績>

- ・ 特別養護老人ホームの創設・増床・改築等を行う
社会福祉法人に対し、整備費及び開設準備に要する経費の一部を補助
- ・ 特別養護老人ホームの整備費への補助
創設441人分、増床12人分、改築等666人分
- ・ 開設準備に要する経費への補助 335人分

<数値目標の進捗状況・評価>

- ・ 令和 6 年度の整備数：793人分
→令和 6 年度目標数40,691人分に対する進捗率：99.2%
目標達成に向けて順調に推移している

<取組の効果・課題・対応策>

<効果・課題>

- ・ 特別養護老人ホームの整備については、市町村整備計画の積み上げに加え、県内10の老人福祉圏域ごとに今後のサービス見込み量や入所希望者等を考慮した計画数を定め、整備を進めている。

<対応策>

- ・ 特別養護老人ホームの整備を計画的に進めるため、整備費等の一部を補助している。
補助基準額は、昨今の建築費高騰を踏まえた見直しを行っており、令和6年度は8.9%、令和7年度は8.1%増額している。
- ・ 県内の高齢者は引き続き増加することが見込まれ、特別養護老人ホームへの入所ニーズも高いことから、今後も計画的に整備を促進していく。

第5節 介護人材の確保・定着・イメージアップ

施策5－1 介護人材の確保・定着・イメージアップ

指標	単位	計画策定時の値	最新値	最終目標値
介護職員数	人	98,781 (R3.10.1)	99,230 (R6.10.1)	121,800 (R8.10.1)

<令和7年度の主な取組実績>

- ・ 介護未経験者等を対象とした求人情報を掲載したポータルサイトの運営や研修実施による就職支援
- ・ 介護ロボット・ICTの導入補助
- ・ 介護職員定着のための資格取得補助
- ・ 外国人介護職員の介護福祉士資格取得を支援する介護事業所に対する資格取得支援費、コミュニケーション促進費及び地域生活費の補助
- ・ 介護のイメージアップ支援のため、介護の魅力PR隊による訪問活動及び永年勤続者に対する表彰

<数値目標の進捗状況・評価>

- ・ 令和5年は計画策定時の値を下回ったが、直近の令和6年は増加に転じた。しかし、全国的にみると介護職員数はほぼ横ばいであり、介護人材の確保が困難な状況となっている。

<取組の効果・課題・対応策>

<効果・課題>

- ・ 介護職は他職種と比べて有効求人倍率が高く、全国的に人材確保が困難な状況となっている。
- ・ 人材の確保を進めるとともに、介護事業所の生産性向上の取組を進める必要がある。

<対応策>

- ・ 令和8年度は、引き続き外国人材の確保に取り組むとともに、若手未経験者を対象とした人材確保策を強化する。
【新規事業（予定）】
介護職員確保に取り組む介護施設への補助（奨学金返済支援）
- ・ 介護ロボット・ICT導入等により業務改善に取り組む介護事業所を支援するワンストップ窓口を開設し、介護現場の職場環境改善や生産性向上を促進する。